



子育て世代の応援団

筑西ファミリーサポート

センターまんなま

「仕事の都合で子どもの習い事の送迎ができない」、「下の子を病院に連れて行く間、上の子の面倒をみてほしい」。そんな子育て世代の困ったを手助けしてくれるのが、市から業務委託を受け、NPO法人として11年目を迎えた筑西ファミリーサポートセンターまんなまです。まんなまの活動内容ややりがいについて、箱守まり子代表理事と初澤とし子アドバイザー、協力会員の富田春美さんに話を伺いました。

安心・安全な保育体制

ファミリーサポートセンターとは、子育ての援助をしたい人が協力



おおどまり ともこ 大泊 知子 さん（黒子）

みんなで子どもを見守り、子育てする優しい社会づくりに私も貢献していきたいと思いました。

時間	午前8時～ 午後7時 (土・日・祝日も可)
料金	600円/時

※時間外の利用は要相談

会員、援助を受けた人が利用会員になり、子どもたちの健やかな成長を地域で支えていく組織です。利用会員から依頼を受けたら、アドバイザーが協力会員を紹介し、サービスを行います。主な活動内容は、通園、通学時の送迎や託児で、首がすわったところから小学6年生までが対象です。

昨年度は557件の利用があり、7割以上が送迎、その他が託児だったそうです。富田さんは「送迎のときは、事前に同じ時間帯で下見をして安全を確認したり、託児のときは、子どもと同じ人数のスタッフで対応



左から初澤アドバイザー、箱守代表、富田会員

したりするなど、安心・安全には細心の注意を払っています」と、大切なお子さんを預かるうえでの責任を話します。このような細やかな配慮が、開所してから今までけがもなく、無事故につながっていると感じました。

初澤さんは「最初は泣いていても、帰るころには次いつ会える？と笑顔で聞いてくれる子もいます。孫のようにかわいい子どもたちの笑顔にやりがいを感じますね」と教えてくれました。

子育て世代の力になりたい

近年の核家族や共働き家庭の増加に対し、箱守さんは「時代の変化とともに、子育てへの負担は増えてい



より広い空間で遊べるようにと、昨年オープンした新託児室

利用者の声

小林 美沙江さん



8年前からまんなまを利用し、学童からの送迎や託児をお願いしています。利用時には、事前に担当者と親子で打ち合わせができるので安心して預けられました。育児の先輩でもあり、子育ての相談も親身になって聞いてくれるので、頼もしい存在です。

ると感じます。子どもを預けることに抵抗を感じる人もいると思いますが、困った時だけでなく、保護者自身のリフレッシュの時間を作るためなどにも、気軽に利用してほしいです。より楽しんで子育てをするために、少しでも力になれたらうれしいです」と、子育て世代へメッセージを送ってくれました。

取材を終えて

まんなまという名前には、赤ちゃん言葉のご飯と、イタリア語のお母さんという意味があり、自分の家と同じようにくつろいでほしいという願いが込められているそうです。その願いのとおり、まるで我が家にいるかのようにくつろぎ、協力会員に甘えるお子さんの姿にはっこりしました。ぜひ一度、見学に行ってみてはいかがでしょうか。

